

智頭石油が全国初のアプリ

「キヤルレスキュー」を提供開始

ガスリンスタンド経営や自動車整備などを手掛ける智頭石油株式会社（本社・八頭郡智頭町智頭六四〇―一、米井哲郎代表取締役）では、スマートフォン専用アプリ「キヤルレスキュー」を開発。8月2日から同アプリを活用したサービスを開始している。

同社は平成27年に、24時間365日対応型の

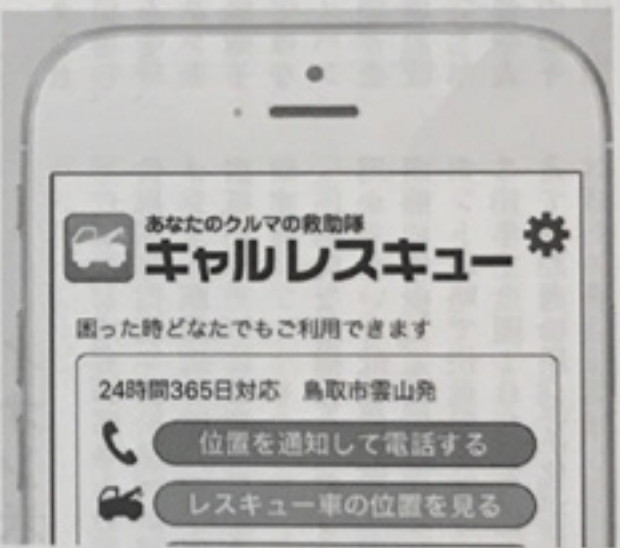
ロードサービス拠点として、鳥取雲山店（鳥取市雲山二一〇―四）をオープン。同店は整備工場も備えていて、車の緊急修理や事故など、3年間で8000件もの対応をこなしてきた。

今回のサービスは、同社が今まで行ってきたロードサービスに、独自開発となるスマホ専用アプリを組み合わせたもので、全国初の試みなのだという。

アプリのGPS機能によって、クライアントとスタッフがお互いの位置を確認出来るので、場所の確認に費やしていた労力と時間の大幅な短縮が見込め、より迅速な対応が可能になるとしている。

対応地域は鳥取市を中心に、東は兵庫県新温泉町、西は倉吉市、南は岡山県西粟倉村辺りまでをカバーする。

使い方は簡単で、事前に無料のアプリをスマホにダウンロードしておく。車のトラブルが発生した時に、依頼者がボタンを押すと同社の出動拠点に電話がつながり、場所も表示される。



そこで状況を伝えれば、簡単な確認のみでスタッフは現場に直行出来る。

クライアント側からもレスキュー車の位置をリアルタイムで確認出来るので、不安や焦りなど待ち時間のストレスが軽減されやすくなる。

「ロードサービスにおいては、不安な気持ちをお持ちのお客様のもとに、一分でも早く駆けつけることが最大の使命」と米井代表。

「ところが現場の近くに目印となる看板や建物が無いと、本来なら30分で行けるところに1時間かかってしまうようなケースも多かった。それを何とか解決したいという現場の問題意識の中から生まれたのがこのアプリ」。

同社ではこれまで、多くの保険会社のロードサービスの下請けを行ってきた。アプリを活用し、保険会社経由ではなく同社へ直接の出動依頼という流れにしたことで、保険会社側も情報伝達の手間が省け、顧客の利便

性もいっそう向上。同社にも仕事が入る。「三方良しの改善になった」と米井代表は説明する。

開発に際しては、企業の新しい取り組みを支援する県の経営革新支援補助金制度を活用。開発資金六百万円のうち、三百万円の補助を受けて実現した。

米井代表は「鳥取県東部を、カーライフにおいて日本で一番安全な場所にするという覚悟で一致団結して進めていく」と決意を話している。

なお、スマホがない場合は従来通り電話で対応する。緊急時は24―1919（24時間行く行く）まで。